

7月5日 関西学連臨時総会議事録

書記：副幹事 松田伸拓

初めに、意見が割れた場合に関西学連総会規約第11条の2

「総会の議事は特別の定める場合を除いては出席校の過半数をもってこれを決し、可否同数の場合は議長の決するところによる」

を使う可能性があることを参加者全員での規約の読み込みおよび口頭での説明により確認した。

各校渉外の同意をもって幹事長松浦を議長に決定

議長：松浦知佑

議題：ミドルセレ日程の第二希望について

各校の意見

京大：15日

セレの目的は関西学連の利益としては枠の増加だ

KOLC大会はインカレの隣接テレインで開かれセレ通過者にとって格好の練習機会

京女：15日

KOLC大会参加希望者がいる

但し、前回の総会の後、十分な調査ができていない

阪大：29日

15日開催は早すぎ、練習会の機会がない

セレ通過が見込まれる者の都合で全体に関わるセレの日程を決めるべきではない

阪大にはKOLC参加希望者がいない

奈良女：29日

理由は阪大に同じ

ここまでの情報はメーリスで共有済みとして質疑応答を行った

阪大→京大

セレの目的は枠を増やすことではなく速い人を選出することでは？

KOLC 大会は隣接トレインだが、隣接トレインでの練習にそこまで効果あるのか？

京大→阪大

セレの目的は速い人を選ぶことだが、選ばれた人がインカレで上位に入ることが重要
そうすれば来年度の枠が増加し、関西学連全体の利益になる
隣接トレインでの練習効果のデータはないが確実に効果はある
また、阪大への質問として
必ずしも直近の練習会を自前で開かなくてもいいのではないか
インカレロングの後 10 月の二週目、三週目に練習すればよいのでは

阪大→京大

セレという重要大会の前にはやはり直前に練習会を開き、ミドルの感覚をつけたい
10 月の練習会は可能だが、セレ当日までに二週間あいてしまう

奈良女→京大

個人レベルの目標は個人の成績であって関西の枠の増加ではない
関東での他の大会、もしくは自前で合宿を開くとかは？
練習会は大会に比べると勝負の観点がなく練習量や質を確保できる

京大→奈良女

ここでの話は関西学連の利益のためになされるべきで個人の目標を大きく取り上げるべきではない
関東での練習会は自前で開くには大変。

ここで論点を明確にするため議論の整理を行った

京大&京女：15 日を希望

KOLC に参加することで隣接トレインでの練習機会を得られることを重視
関西の代表となった選手がインカレ本大会で良いパフォーマンスができることが重要

阪大&奈良女：29 日を希望

インカレロングからの時間、大会の集中度などを重視
新人を含む個々人がセレに向けて十分に練習できることが重要

このように 15 日案と 29 日案ではそもそも重視する点が全く違うので、このままでは結論
が出ない。代表のインカレでの成果と個々人のセレでの成果と関西学連として重視すべきはどちらかを話し合うべきではないか

奈良女→全体

これまでインカレミドル前の隣接トレインでの練習機会はどうか確保していたのか

例年の例を見ると、インカレミドルの前に2年前はJOA合宿や日学合宿があったし、1年前も名相技術課レースがあった。今年も日本学連の練習会はありそう。しかし、現状これらの練習会の情報はオリエンテーリングコムに掲載されていないので確実にあるとは言えない。また、京大からは、仮にそのような機会があるにしても、隣接トレインでの練習が多いならそれに越したことはない、との意見が出た。

阪大→京女

前回の定例総会で意見集約をするよう決めたのに、メーリスで意見募集しただけというのは方法がよくないのではないか←これに関しては他校からも異論なし
実際、メールではどの程度意見が集まったのか

京女の回答

メーリスで聞いた時の意見表明はゼロ。ただし後日KOLC大会に出たいという意見表明が新人からあったのでKOLC大会があって関東のトレインを体験する機会があるのなら新人のためにもその機会をつぶしたくない。

これまでの議論を踏まえて、(各校の意見は別として)議論の参加者に個人的な意見を尋ねた。これは、(この時点で採決での決定が困難だと予想されたので)幹事長判断の際に少しでも多くの意見を考慮することができるようにするための措置である。

- ・個人的には近場で数をこなしたいが議論は15日優勢?
- ・個人的にKOLC大会に参加したい。
- ・リレーでも意識次第でミドルの練習はできる
- ・京女から栃木まで行く人は少ないが、真剣にインカレを見据えてやっている人からKOLC大会を取り上げたくない
- ・直前の練習会の必然性は感じない
- ・ミドル初の新人向けにはミドル用の練習会が必要
- ・大会で意識するより練習会で練習に特化したい
- ・部のコンセプトとして「大会に行けない人も近場の練習会には参加してほしい」としているので29日でもよい
- ・レースよりも気兼ねなく負担なく参加できる練習会を意識したい
- ・新人もたくさん入ったから練習会を増やしたい

これまでの議論を踏まえて、意見をかえた人はほぼいなかった。

「KOLC 大会に参加すれば、インカレでいい成績を残せる。また、枠を多くとれる。」

このことを関西学連加盟員の利益ととらえる京大・京女の意見と

「きちんと練習をつんだ状態でセレをおこなえ、実力のある人を選べる。」

このことを関西学連加盟員の利益ととらえる阪大・奈良女の意見で力点の置場が違うため意見がまとまらなかった。

議論時間が1時間半を越え、議論は出尽くしたと判断し決を採った。

15日 2校

29日 2校

よって、関西学連総会規約第11条の2の通り、議長の判断になった。

議長の判断（29日）

〈理由〉

総会では、各校が1票ずつ投票権を持っている。今回は2対2であるが、前回の総会で各日にちの利点・欠点を元に話し合いをしておらず、メーリス上での意見が集まらなかったため前回総会前の話し合いの結果のまま15日をおす京女の意見は相対的に弱いと考える。

・インカレまでに隣接トレインで練習をしたいという意見だが、例年によると隣接トレインで練習する機会はKOLC大会の他にもあるはずである。

・「KOLC 大会に参加すれば、インカレでいい成績を残せる。また、枠を多くとれる。」

「きちんと練習をつんだ状態でセレをおこなえ、実力のある人を選べる。」

この関西学連にとってどちらがより利益になるかについての、2つの意見はどこに力点を置くかのちがいである。

この二つの考え方の優劣をつけることはできないが、インカレの選手権クラスを目標にする人(セレの当落線上にいる人)のほうが、インカレ選手権でいい順位を取ることを目指している人よりも人数的には多いはずである。